

## オリーブ内科クリニック 鈴木院長に聞く

# 遷延性術後 疼痛について

Oliver 11

オリーブ内科クリニック  
院長 鈴木 義明

【経歴】  
藤田保健衛生大学卒業(平成8年)  
坂文種報徳会病院 麻酔科  
名古屋大学 環境医学研究所  
ドバイ・ニュルンベルグ エルランゲン大学 生理学  
尾洲病院 内科  
木曽川市民病院 疼痛外来



### 遷延性術後疼痛とは

Q 今回は遷延性術後疼痛について教えてください。まず、こ

ちらは手術後に痛みが長引くことという捉え方でよろしいでしょうか？

A はい。手術により異なりますが、術後痛みは通常2週間以内に痛みで日常生活や睡眠に支障を来すことは少なくなります。しかし、腫瘍の残存や手術創の感染等の明確な原因がないにもかかわらず2か月以上経過後も、術後痛から解放されないことがあります。発生頻度は手術によりますが、10～50%と言われています。

Q どういうメカニズムで慢性痛に移行するのでしょうか？

A 手術における皮膚切開部、筋肉などの深部組織、内臓などにブラジキニン、CGRPなどを放出するのであります。

Q なるほど。ただ発生しているの術後痛の評価

慢性痛を予防するには

Q この遷延性術後疼痛に対する予防策はありますか？

A 術後早期には、安静時にもジンジン、ズキズキした痛み、手術創周囲に触れるだけで感じるヒリヒリした痛み、体を捻るなどして生ずるズキンとした鋭い痛み等があります。これらの痛みが遷延性術後疼痛に移行するかの見極めは難しいですが、持続する

炎症状態、神経の損傷、消炎鎮痛薬でも抑えきれない激しい痛みがある場合、慢性痛のリスクが高く治療する必要があると言われています。

Q では、もしこの慢性痛が発生してしまった場合はどうすればいいでしょうか？

A 触るだけでも痛みを感じる場合は、大脳皮質や視床を抑制する解離性麻酔薬や抑制系ニューロンを賦活する抗うつ薬が有効であると言われています。痛みが気圧や天候に影響されるような場合は交感神経ブロックを併用すると治療効果が高まります。症状の出現から治療開始までの期間が短い方が痛みは緩和されやすい傾向にあります。

よる創部や中枢神経の過敏性による強い痛みの持続は、中枢神経においてシナプスの機能変化、抑制系ニューロンのアポトーシス、免疫細胞ミクログリアの活性化を引き起こします。そうした変化は、通常、痛みとして認識しないような知覚情報を苦痛な感覺として慢性的に捉えられるようになります。

### 当院導入の医療機器



## 看護師・検査技師 募集中

お気軽にお問い合わせ下さい

次回は、  
「糖尿病性神経障害の痛みとしづれ」  
についてのお話しを伺います

オリーブ内科クリニック

0587-21-1177

〒492-8145 稲沢市正明寺3丁目191

olive-cl.com 検索



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
AM8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	/
PM4:30~ 6:30	●	●	●	●	●	●	/

診療科目 内科 ペイン(痛み)内科 リハビリテーション